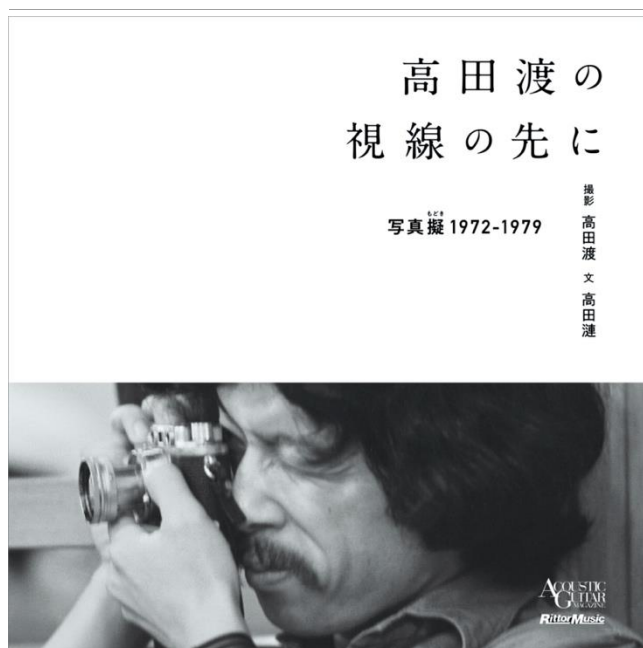


各 位

2021年1月27日
株式会社リットーミュージック

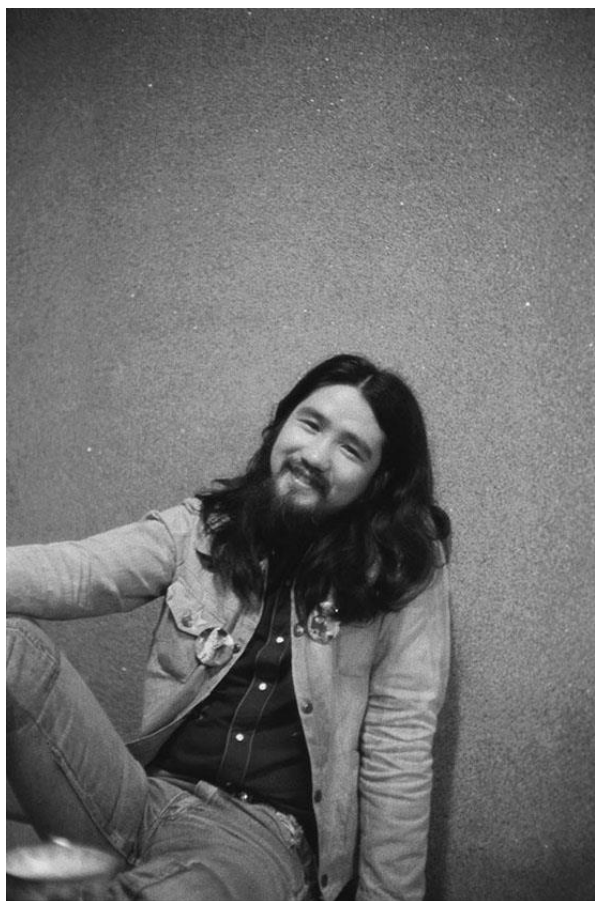
カメラマンはフォーク・シンガーの高田渡！？
1970年代の京都、吉祥寺、韓国、沖縄、ヨーロッパ、
そして多数のミュージシャン仲間を捉えた歴史的写真集が発売！



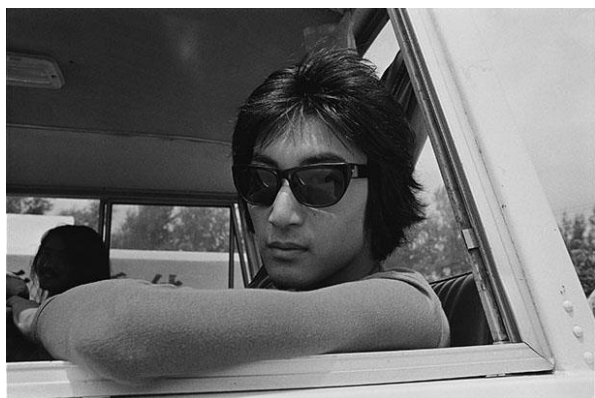
インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『高田渡の視線の先に-写真擬（もどき）-1972-1979-』を、2021年4月16日に発売します。

本書は、フォーク・シンガーの高田渡がカメラを構え、撮影した作品を一冊にした写真集です。酒と音楽をこよなく愛した彼はツアーや旅先にも必ずカメラを持ち歩き、一時期は本気で写真家を志した時期があったと言います。

このたび、高田渡が遺した膨大な数のフィルムが見つかり、その1枚1枚をスキャンしたところ、若き日のはっぴいえんど（細野晴臣、大瀧詠一、松本隆、鈴木茂）や井上陽水、遠藤賢司、友部正人、坂本龍一、西岡ひろし、泉谷しげる、中川イサト、中川五郎、はちみつばい、三上寛、なぎら健壺、シバ、加川良、西岡恭蔵、かまやつひろし、武蔵野タンポポ団（以上、順不同）など、同時代を生きた仲間達の写真が多数発掘されました。緊張感漂うバックステージの様子、和気藹々としたオフショットは、まさに本邦初公開となる歴史的なカットばかりです。



1974 年、遠藤賢司。一緒にまわったツアー先で。©Takada Wataru



沖縄にて、移動中の友部正人。©Takada Wataru



1974年の春一番コンサートより。なぎら健壺、他。©Takada Wataru

また、1970年代に暮らしていた京都や吉祥寺、ツアーで巡った日本各地、パリやマドリッドなどのヨーロッパ旅行で撮影された何気ない写真は、まさに高田渡が歌にした世界観をそのまま写し出したかのよう。その1枚1枚が、社会の矛盾を鋭く、そして繊細に切り取った氏の歌と同じように奥深いものがあり、我々に何かを訴えかけてきます。

なお、本書の発売日となる2021年4月16日は、奇しくも高田渡氏の十七回忌にあたります。自分が撮影した写真が一冊の作品として世に出ることはもちろん、このように写真集の中で昔の仲間と一堂に会することは、きっとご本人も喜んでいるに違いありません。

写真の解説は、高田渡の長男であり、マルチ弦楽器奏者として様々なフィールドで活躍する高田漣が担当。稀代の詩人でもあった高田渡の視線の先にあった大事なものが、きっとこの写真集から伝わってくることでしょう。



1974年、ドイツ・ミュンヘン。©Takada Wataru



1970年代の渋谷駅前。©Takada Wataru



吉祥寺の井の頭公園にて。©Takada Wataru

■書誌情報

書名：『高田渡の視線の先に-写真擬-1972-1979-』

撮影：高田渡、文：高田漣

定価：本体 4,500 円+税

発売：2021年4月16日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3120312001/>

CONTENTS

- 1：友部正人と渡
- 2：1972 ヨーロッパ（パリ、マドリッド、フランクフルト、コペンハーゲン、ストックホルム）
- 3：京都と人々（祭・実家）
- 4：1973 韓国ソウル
- 5：仲間たち
- 6：沖縄
- 7：吉祥寺と人々

- 8 : 1974 春一番コンサート
- 9 : 旅芸人の記録
- 10 : スタジオ
- 11 : 1974 ヨーロッパ (パリ、ミュンヘン、スイス、イタリア、エジプト)
- 12 : 駅
- 13 : 1975 JAM コンサート
- 14 : 1975 『フィッシング・オン・サンデー』 レコーディング@LA
- 15 : 年輪、歯車、街と人
- 16 : ブランコ

主な登場予定人物 (順不同) : 青木ともこ、あがた森魚、朝比奈尚行、ANNSAN、石田長生、伊藤銀次、泉谷しげる、いとうたかお、井上陽水、今井忍、遠藤賢司、大江田信、大瀧詠一、大塚まさじ、大庭珍太、加川良、かしぶち哲郎、金森幸介、かまやつひろし、キヨシ小林、洪栄龍、小林政広、佐久間順平、サスケ、坂庭省悟、坂本龍一、斉藤哲夫、佐藤GWAN博、佐藤博、佐藤B作、シバ、鈴木慶一、鈴木茂、武川雅寛、竹田裕美子、田中研二、ダッチャ、友部正人、永井洋、なぎら健壺、中川イサト、中川五郎、長野たかし、西岡恭蔵、西岡たかし、はっぴいえんど、はちみつぱい、林敏明、福岡風太、細野晴臣、本多信介、松田幸一、松本隆、三上寛、武蔵野タンポポ団、村上律、村瀬雅美、村瀬春樹、渡辺勝、和田博己、他。

PROFILE

高田渡 (たかだ・わたる)

1949年1月1日-2005年4月16日。岐阜県出身。1969年に高石音楽事務所に所属し、「五つの赤い風船」とのカップリング・アルバムでURCレコードからデビュー。71年にベルウッドから名盤『ごあいさつ』をリリース。75年には細野晴臣達とLAレコーディングを行ない、翌年に『FISHIN'ON SUNDAY』を発表。その後もマイペースな活動を続け、2004年に公開されたドキュメンタリー映画『タカダワタル的』で人気が再熱。時代に流されない生き方に改めて幅広い世代のファンが共感を覚えた。2005年に急逝するも、その存在は今も多くのミュージシャンに影響を与え続けている。



PROFILE

高田漣（たかだ・れん）

1973年、高田渡の長男として生まれる。少年時代はサッカーに熱中し、14歳からギターを始める。2002年、アルバム『LULLABY』でソロ・デビュー。現在まで7枚のオリジナル・アルバムをリリース。ギター以外に、ペダル・スティール、ウクレレ、バンジョー、マンドリンを操るマルチ弦楽器奏者としても活躍し、他アーティストのアレンジ及びプロデュース、映画、ドラマ、舞台、CM音楽を多数担当。2015年、父・高田渡の没後10年を機にトリビュート・アルバム『コーヒーブルース～高田渡を歌う～』をリリース。2017年10月には4年ぶりとなるオリジナル・アルバム「ナイトライダーズ・ブルース」をリリースし、第59回 日本レコード大賞 優秀アルバム賞を受賞。

【株式会社リットーミュージック】 <https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 Rittor Base」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やエンタメ情報サイト『耳マン』、Tシャツのオンデマンド販売サイト『TOD』等のWebサービスも人気です。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証1部9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」「学術・理工学」「旅・鉄道」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当 吉田（勇）、原見

Tel: 03-6837-4704 / E-mail: pr@rittor-music.co.jp